「確かな安全・品質への挑戦」元請けが“自ら実行”する安全施策の『質的向上への転換』

株式会社TTK　NTT事業本部

1．はじめに

我が社は、「ゼロ災」を目指して、現場第一線の事故防止対策として極めて有効な手段である「KY（危険予知）」と「指差し呼称」を安全推進活動の基本として、各現場に展開してきましたが、事故がなかなか減少せず、思うような成果が上がらずにおりました。その要因としては、現場の状況を踏まえた的確な作業指示書が出されていないことや現場での「KY」「指差し呼称」が徹底されていないこと等元請けの安全マネジメント力不足にあると痛感しました。

そこで「協力会社の姿は元請けの姿」と反省し、原点に立ち返り、基本を学び直すため、現場代理人等の元請社員の“ゼロ災研修”を実施しました。そして協力会社の全作業従事者への研修につなげ、「安全先取り職場風土づくり」の展開を全員参加により取り組んでいます。今回、その取組みの一端をご紹介します。

2．安全施策の質的転換を図る契機となった重大な人身事故の発生

平成26年７月岩手県の光サービス開通工事において、管外支援班がお客様宅の壁面で、高所作業中に梯子から転落するという重大な人身事故を発生させました。転落防止器具を使用していなかったことが直接の要因でしたが、元請けとして　①新規入場者研修での安全指導が不十分であったこと　②安全確保に向けた、日々の「KY」「指差し呼称」等安全活動の的確な指示・確認がなされていなかった等の、安全マネジメント力不足が根本的な要因でした。この重大な人身事故を踏まえ、全社的に『改善計画』を作成し、全事務所における日々の朝礼の実施、事務所における安全マネジメント実施項目の再整理、新規入場者研修内容の見直しを図る等、継続的な改善を進めてきました。

3．「KY・指差し呼称」の質的向上を図るための元請けから協力会社への展開ステップ

一方、「KY」「指差し呼称」は毎月現場で実施する安全会議での「KYT」の実施や朝礼時の「指差し呼称」の実施状況から、協力会社への教育はある程度はできていたと考えていました。しかし、現場の協力会社では“やらされ”感が強く、事故防止に有効に機能しているとは言えない状況がみられました。また、協力会社へ安全活動の指示・指導を行う、元請けの現場代理人や補佐等に対して、「KY」「指差し呼称」を自信を持って正しく指導できる教育を実施してこなかった課題が浮き彫りになり、早急な対応が必要との認識を持ちました。

そこで、「KY」「指差し呼称」の質的向上を図るために、原点に戻り、まず元請社員がその基本を学び、その後に協力会社の作業員に展開することとしました（図１）。

〈ステップ１〉元請社員（安全品質管理部長、現場代理人等）へのゼロ災研修

まず支店における工事管理部ラインの安全活動をサポートする安全品質管理部長等に対して、社外（中災防）の４日間研修（俗称“プロ研”）に６名受講させま

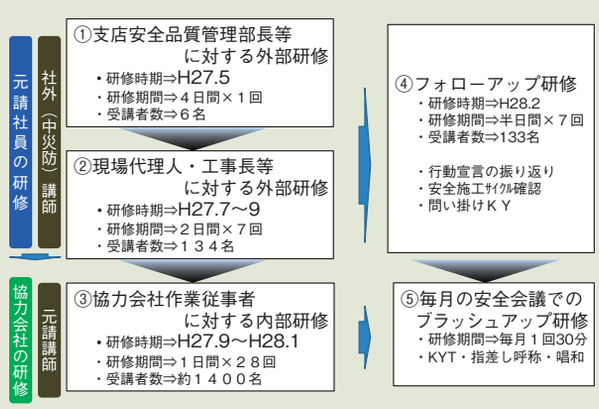

図１　KY・指差し呼称等の『質的向上』に向けたステップ

ねらい
株式会社ＴＴＫに労働安全衛生関係法令が求める事業者責任を、『注文者』のゼネラルマネージャーである工事管理部長の責任の基に遂行する安全衛生管理をライン化（部長、課長等の責任の基に遂行すること）で自ら取り組む具体的行動の、能力向上を図る。

＜第１日目＞
・労働安全衛生法に基づく企業活動の基盤形成度の現状把握と問題点を捉え解決の策を見出す。
・安全先取り作業ＫＹサイクル活動の取り組み方を理解する。

＜第２日目＞
ヒューマン・エラー事故防止の危険予知訓練と生かし方を理解する。
今後の取り組み方向を、自己決定する。

時間割	区分	内容
9：00～	開会	開会あいさつ（ＴＴＫ）
9：20～	実技１	○作業
10：00～	実技２	チームミーティング
10：10～	講義１	最近のＴＴＫ－Ｇの労災の発生と問題点（ＴＴＫ）
10：30～	休憩	
10：40～	実技３	問題提起ミーティング（テーマ「なぜ我々の職場では同種・同類の事故、災害が発生するのか。どんな問題があるのか
12：00～	昼食・休憩	
12：45～	実技４	演習⇒指差し呼称、唱和
12：50～	実技５	安全管理の現状
13：50～	講義２	１・労災防止のために体制を明確にして　２・安全管理体制とライン管理者、監督者と全スタッフの役割
14：25～	休憩	
14：40～	ＤＶＤ１	事故ゼロへの挑戦　～安全に言い訳なし～
15：15～	実技６	講義とビデオ視聴覚後の振り返り
15：35～	講義３	1･安全管理のライン化 2･安全活動は企業活動、事故･災害と職場風土
16：05～	実技７	職場風土を耕す始業時の活動（始業時のポイント・健康問いかけＫＹ）
16：45～	実技８	１日目の振り返り（全員学び
16：55～	解説１	１日目のまとめ
17：05～	終礼	全体終礼、チーム終礼

●ＴＴＫの事故等の現状理解
●法的な元請責任
●「指差し呼称」、「指差し唱和」「タッチ＆コール」繰り返し実施

時間割	区分	内容
8：30～		
8：45～	ＤＶＤ２	ＫＹＴ４
9：20～	実技９	ＫＹＴ基礎４ラウンド法（第１ラウンドまで）
10：05～	休憩	
10：15～	実技10	日々の短時間ＫＹミーティングの基本手法 ＫＹＴ基礎４ラウンド法（簡略）
11：05～	実技11	ＫＹＴ
11：50～	昼食・休憩	
12：35～	実技12	昼礼 整列→健康確認 スピーチ→スピーチまとめ→Ｔ＆Ｃ 指差し呼称、 ＴＴ＆Ｃ演練
12：45～	実技13	指示者レベルへのＫＹＴの生かし方 手順書作成と適切指示即時（ＫＹＴ）
14：10～	休憩	
14：25～	実技14	実践ＫＹ活動への指導・援助への展開 コーチングを活かした問いかけＫＹ演練
15：15～	実技15	問題解決４ラウンド法 テーマ「実技３」の討議テーマ
16：10～	実技16	自己決定　ラベルによる問題解決　・テーマ「我々は事故・災害ゼロが継続できる職場をこのように行 つくろう」
17：05～	実技17	二日目の振り
		チーム 中災防挨拶 ⇒ ヨシ！」

●ＫＹＴ（危険予知トレーニング）演習
●適切な作業指示書の出し方
●今後のチーム行動計画
●自己決定

図２　現場代理人等の『ゼロ災活動研修会』カリキュラム

写真１　元請け講義模様

写真２　元請け指差し呼称演習

写真３　元請けKYT実技演習

した。他社の受講者との交流により、元請けとして取り組むべき安全活動に対する自らの考えを改めて見直す機会となり、“極めて刺激的で有意義であった”と受講者全員が口をそろえる研修でした。

次に協力会社の作業者に直接安全指導、サポートをする工事管理部長・現場代理人・補佐など全社員（134名）に対して、研修を２日間に絞り込み、社外講師（中災防）による出前研修を実施（７回）しました。研修内容は「元請けの法的役割」、「元請けの代わりとなり作業する協力会社作業者への人間尊重」、その仲間を守るために安全を先取りする「KYT」・「指差し呼称・唱和」等で、元請けとしての安全マネジメント力を強化する内容としました（図２）。２日間にわたり声を出し続け、くたくたになる研修は、「元請けとしての役割」の基本を体に叩きこみ、協力会社に対する指導・サポートを行う自信となりました。研修の最後には、自分が“今後どのようにゼロ災活動を展開するか”の『行動目標』を立てて研修を終えました（写真１～３）。

〈ステップ２〉元請社員による全協力会社作業者へのゼロ災研修

これまでの安全研修は班長中心であったことから、現場でのKYの実践力は班長の力量に左右されていました。そこで、現場での実践力を高めるため、協力会社の全作業者に対して研修を実施しました。研修内容は“プロ研”の受講者が中心となって検討し、実技主体の１日の

<ねらい>
現場第一線で作業を行う作業者の安全と健康を確保するためには、安全衛生管理活動と職場自主活動の実践が必要不可欠です。作業者が自ら安全先取りへ動き始める活動への取り組み方を体験学習し、最終的には人を中心とした自ら実行する安全で健康で快適な職場、明るくいきいきとした職場風土づくりをめざす。

大区分	中区分	概要		時間割	時間
1．開会	①開会の挨拶 ②オリエンテーション ③TTKの事故（過去5年）	①ＴＴＫ（5分） ②カリキュラム説明（10分）　研修の心構え（5分） ③TTKの事故状況　要因・原因（20分）		9：00 ～9：40	40
2．指差し呼称	①正しい作業とは ②指差し呼称・指差し唱和・タッチ&コール（Ｔ＆Ｃ）	②指差し呼称の実施する背景・意味・効果、指差し唱和、Ｔ＆Ｃ説明(15分) 指差し呼称の実践(10分)指差し安全唱和(1 感想、Ｑ＆Ａ、アドバイス(5分)	・全体講義	9：40	50
	②チームミーティング	②自己紹介、研修の心構え（10分）			10
3．講義	①ヒューマンエラー ②安全施工サイクル ③エスカレーション	①ヒューマンエラーの事故防止対策（10分） ②安全施工サイクル 元請、班長の役割（5分） 朝礼の重要性（5分） ③エスカレーションの遅延による影響（10		20	30
4．4R-KY	①最新のＫＹＴ進め方 ②ＫＹ手法の統一	①ＤＶＤ　KYTの進め方（25分） ②危険予知活動手法の統一：N-ＫＹからＫＹ	・全体講義	11：20 ～11：50	30
	昼休み11 50~12 40				50
	③指差し呼称・指差し唱和 ④4R-ＫＹＴ進め方説明 ⑤4R-ＫＹＴ演習（1Ｒまで） ⑥４R-ＫＹＴ演習（1Ｒから4Ｒ）	③指差し呼称・指差し唱和復習（5分） ④4R-ＫＹＴ進め方説明　（10分） ⑤ＫＹＴ4Ｒ法（1Ｒまで）　（30分） チーム内　相互発表　感想、Ｑ＆Ａ、アド ⑥ＫＹＴ4Ｒ法（1Ｒから4Ｒ）　（40分） チーム内　相互発表　感想、Ｑ＆Ａ、アドバイス	・チーム実技	5 休憩10	105
5．ボイスＫＹ	①ボイスＫＹ進め方説明 ②ボイスＫＹモデル演技 ③ボイスＫＹ演習	①ボイスＫＹの進め方説明（10分） ②ＤＶＤ（10分） ③ボイスＫＹ実践　リーダ、作業員を交互に変える チーム内　相互発表　感想、Ｑ＆Ａ、アドバイス	・チーム実技	14：35 ～15：20	45
	①行動宣言 ②日々の危険予知活動は ＣＳ活動	①自分の行動宣言をラベルに記入（5分） 行動宣言の読み上げ（5分） ②ＫＹ活動の活発化に向けて（5分）	・全体講義	15：20 ～15：35	15
6．終礼	①進め方説明 ②チーム終礼 ③全体終礼 ④指差し唱和	①進め方説明（5分） ②今日学んだことを振り返る（一人ひと ③６０秒スピーチ（各チームリーダ）（1 ④「ＴＴＫゼロ災でいこう　ヨシ！」		35 ：00	25

●ＴＴＫの事故等の現状と分析及び対策
●ヒューマンエラーと防止対策（ＫＹ、指差し呼称）
●安全施工サイクル、班長の役割
●KYT(危険予知トレーニング)演習
●現場での作業前ＫＹ（標準ボイスKY・ICレコーダ使用）
●行動宣言
●「指差し呼称」、「指差し唱和」「タッチ＆コール」繰り返し実施

図３　協力会社作業員の『ゼロ災活動研修会』カリキュラム

写真４　協力会社元請け講師講義模様

写真５　協力会社指差し唱和演習

写真６　協力会社Ｔ＆Ｃ

カリキュラムを組み立てました（図３）。講師は“プロ研”受講の元請社員が行い、土日等を活用し計28回、約1400名の全作業者（アクセス、ユーザ、基盤、NW、設備運営）に研修を実施しました。KYT等の実技演習では、社外研修を受講した現場代理人等を各グループの指導者として配置しました。自分の習得した内容の振り返りにもなり、わが子へ伝えるような熱の入った指導となりました。研修内容は、NTT様の「N-KY」と中災防の「KY」の２つの手法が社内で混在していたことから、より現場に即した中災防の「KY」手法へ統一することとしました。また「KYT」「指差し呼称・唱和」だけでなく（写真４～６）、工事着手前に行う作業前「ボイスKY」（ボイスKY：ICレコーダを使用し、KYの実施状況を記録）の手順の中に、チームでスキンシップをとり、チームの一体感、連帯感を高めチームワークづくりに役立つ“T&C（タッチ・アンド・コール）”を追加するなど、現場ですぐに実践できる内容の研修を実施しました（図４）。

協力会社の大部分の受講者は、朝はどんな研修が始まるのか不安げな表情で、声も小さくスタートしました。しかし、「指差し呼称・唱和」では声が枯れるような大きな声出し、「KYT」の実技演習では、身振り手振りを繰り返しまじえ、不安全な行動、不安全な状態の危険要因を排除することの意味の重要性など、「なぜやるかの意味をキチンと理解する」ことに重点をおいて進めました。正しいやり方を学んだことによる納得度が増し、夕

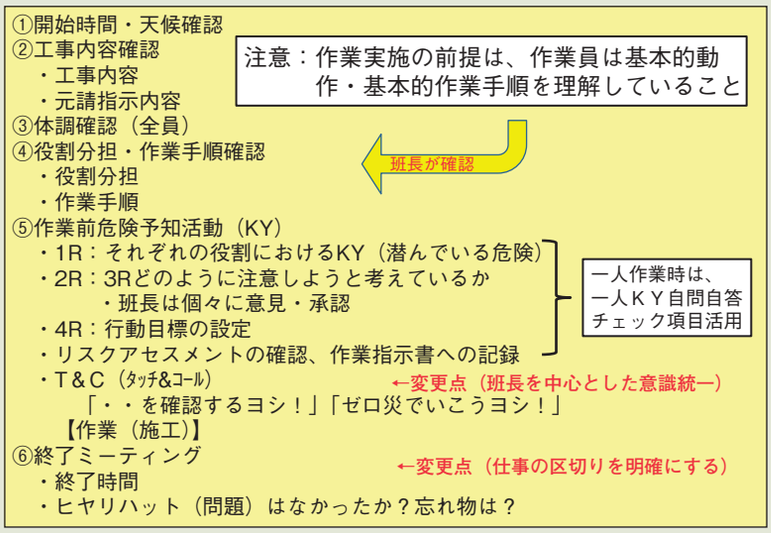

図４　作業前ボイスKYの標準型（ボイスKY：ICレコーダを使用して記録すること）

方にはくたくたになりながらも、明るく活き活きとした表情にかわり、参加者全員それぞれに、明日からの現場での「KY」「指差し呼称」を実践することを力強く自己宣言し、研修を修了しました。

協力会社の受講生からのアンケート等からも、非常に有意義な研修であったとの多くの声を聞くことができ、現場での実践が大いに期待が持てる手ごたえを感じました。また現場代理人等が実技演習で指導的役割を果たすことにより、元請社員の習得スキルの習熟度が増すと同時に、元請社員が本気で「ゼロ災活動」に取り組む姿勢によって、協力会社との信頼関係がより醸成され、チームとしての心的関係強化も大いに図られたと感じています。

〈ステップ３〉研修内容の定着化をねらい、現場作業前KYの実施状況の確認方法を標準化

研修成果は、各職場での安全朝礼の指差し呼称や朝礼最後に各チームごとにT&Cを実施することを取り入れるなどすぐに現れました。研修で学んだKYを現場で自ら実施しているかを確認するために、昨年度の下期安全推進期間（H27.12～）での安全パトロールから、共通の「チェック表」により評価・指導等を行っています。今後も、全ての工事班に対して、定期的（月１回以上）に「KY」「指差し呼称」の実施状況の確認・指導を行い、一層の質的向上を図っていく考えです。

〈ステップ４〉元請社員の「ゼロ災研修」のフォロー研修

現場代理人等元請社員の安全マネジメント力が低下しないように、『ゼロ災研修』時に、自ら決定した“行動目標”の実施状況等の成果・反省を共有する半日のフォロー研修を約４カ月後に実施しました。研修では、安全施工サイクルの基本となる朝礼の重要性や安全パトロール時での作業者の自らの安全予知活動を高める「問いかけKY」も付加し、元請けとしての安全施工マネジメント力の質的向上を図る内容としました。また、毎月の安全会議では、「KYT」「指差し呼称」の演習を必須として、協力会社作業者の実践力の維持をはかっています。

４．おわりに

最後に、今回「KY」「指差し呼称」を中心とした「ゼロ災研修」を元請・協力会社の関係する全社員に対して実施したことで、「あの研修で学んだことは忘れずに実践しよう！」といえる環境ができたことは最大の実践力を高める・継続させる強みになったと考えています。今後、あらゆる現場・職場において、実施する本質を忘れずに、質的向上が図られ、「自ら実践するKY・指差し呼称」となるよう、愚直に取り組んでいきます。まだまだスタートしたばかりですが、大きな目標に向かって、元請けである我々が自ら実施し、協力会社を牽引し、一体となって進める“ゼロ災推進活動”に取り組んでいく覚悟です。